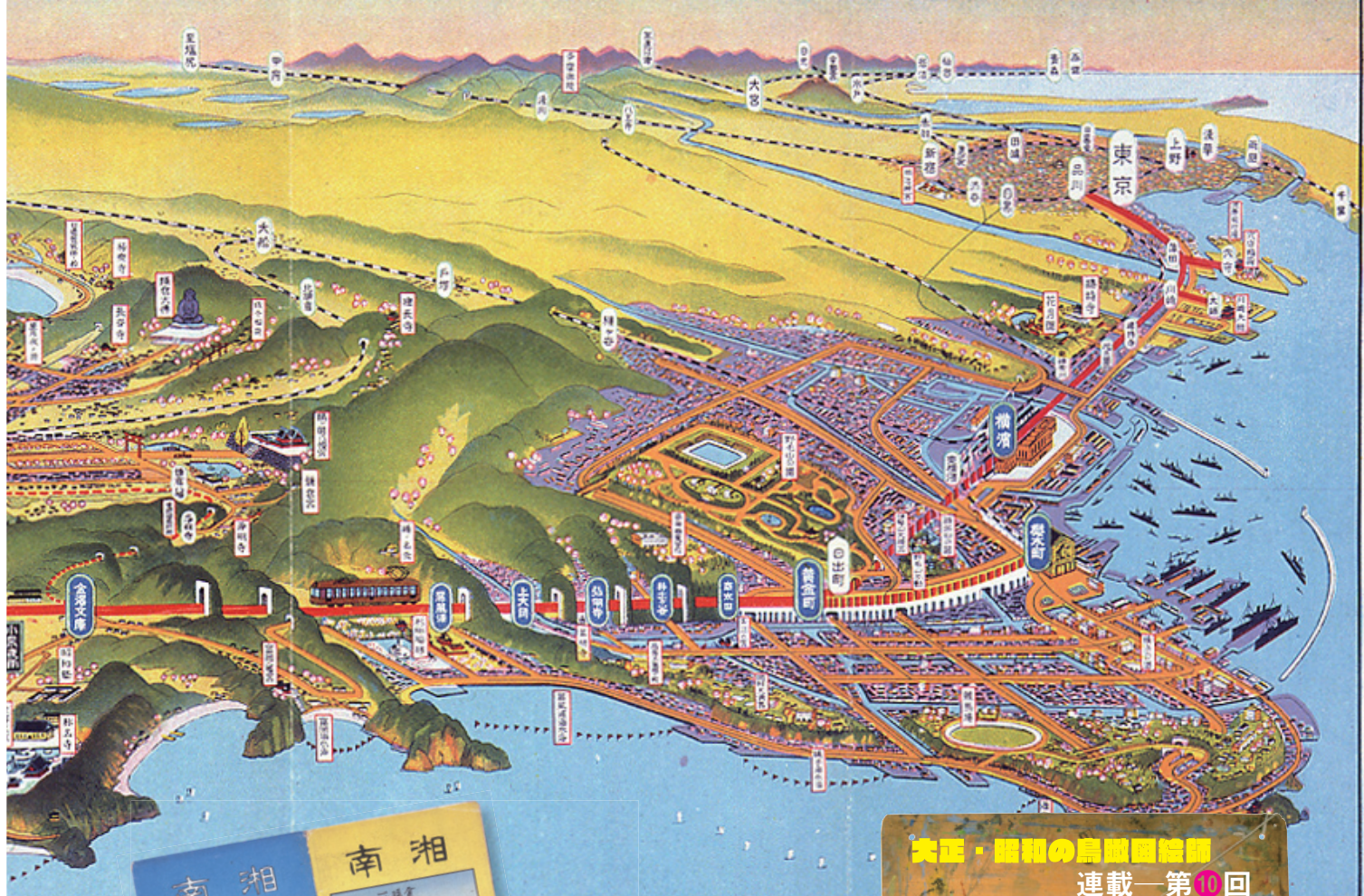




湘南 名所図繪

文・藤本一美
text by Kazumi FUJIMOTO

初三郎得意の海側から望む大胆な構図である。東京湾・浦賀水道を前景に、大きな三浦半島を配置し、中景に江ノ島や東京を、さらに遠景の象徴である富士山を堂々とした山姿として描写している。

遙か彼方には、函館や門司、伊豆大島三原山の噴煙まで演出している。各地のピンクの桜と梅の満開状態の表現も、旅心を誘ってくれる「遊び心」と言えようか。

半島部を詳細にみると、湘南沿線の横浜―浦賀間は、ほぼ一直線の路線手法だ。リアス式海岸の入江が続く海沿いに、小さなトンネルが連なる景色を表現。画面中央に名勝金沢八景、その左下には海軍横須賀飛行場や航空隊の官舎を描写。南に続く地域は軍港地帯で「横須賀軍港駅」(現汐入駅)そばには、海軍工廠やたくさん軍艦が浮かび、鎮守府海軍工機学校、砲術学校も…。

藤本一美

首都大学東京(都立大学)非常勤講師。日本国際地図学会常任委員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に『旅と風景と地図の科学Ⅱ』(私家版2006年)、最新刊に『展望の山50選 関東編』(東京新聞出版局)がある。

